

～内閣府認定 企業版ふるさと納税対象事業～

【概要版】

木城えほんの郷を活かした子育て世代の移住促進プロジェクト



木城えほんの郷の基本理念

木城町は全体の約8割が森林で、その中ほどをゆったりと小丸川が巡っています。「木城えほんの郷」がある石河内地区は、この川の中流部、町の中心地からは峠を一つ越えた所にあり、川や田園、里山に囲まれており、タチツボスミレ、キンポウゲ、カヤツリソウなど年間を通して希少な植物に恵まれ、野生動物や昆虫が豊富に生息する豊かな自然体系（みどりのゆりかご）を残す山里に位置しています。

「木城えほんの郷」はこれら自然の不思議や美しいものに驚く人間の感性（センスオブワンダー）を大切にし、この地の自然の中で絵本の世界に出会うことを願っています。そこではゆったりとしたひとかたまりの時間の中で豊かな自然に親しみながら、絵本の読み聞かせや自然を活かしたイメージ体験活動を実施し、「現代社会の中で人

間の心と体をつくる途上の子どもたちにどのように関わっていくべきか、大人たちもその原点に帰って、心も体も元気になれる場所」を基本理念として事業を展開しています。

木城えほんの郷の施設概要・活動内容

「木城えほんの郷」は、約 20,000 冊の蔵書を備えた「森のえほん館」を中心に、手作り遊びなどワークショップを実践する「森のきこり館」、演劇・コンサートを実施する「水のステージ」・「森の芝居小屋」、宿泊施設の「森のコテージ」など、みどりのゆりかごの自然と一体となったえほんの郷のトータルイメージを創造しながら、企画運営を進めています。

トータルプランナーを中心に、絵本の読み聞かせ、絵本原画展の企画・蒐集、絵本大学、昔話大学の企画やみどりのゆりかごの自然体験のワークショップなどの活動を通して「木城えほんの郷」を創り続けています。



具体的事業

【みどりのゆりかごの自然体験のワークショップ関係】

特に四季を通したコンサートや演劇、自然を活かした「里山虫むし合宿」「10才ひとり旅」等の体験（体感）事業は全国から参加者が集まっており、子供の自主性・創造性等を育む取組みは国内外から高く評価されている。特にIT先進国の韓国からの視察が多く、ネット社会の問題が懸念されている昨今の状況において、子供たちの情操教育を実践する場としてモデルケースとされています。

（1）10才のひとり旅（夏・冬開催 年2回）

子どもたちが見知らぬ友と出会い新しい自分を発見する旅（家を出てから家に帰るまで1人旅が原則）。自然の中で川遊び、虫遊び、青年サポーターと一緒にワークショップを楽しみ、心と体を開放し五感全部を使って人に出会って共鳴する楽しさを体験することを目的とするもの。



（2）今森光彦 里山虫むし合宿（8月 年1回）

今森光彦氏（写真家）を講師とし、小さな生命に適した環境づくりを続けながら、自然生命に触れる合宿を実施。蝶やトンボ、カブト虫、水に潜

むゲンゴロウやマツモムシを追いかけながら、踏みしめる大地の草木、小川の水、ノイバラのトゲなど自然の全てを五感で感じながら、里山と人と植物たちのつながり、危険を察知する能力や体のバランス感覚を育むことを目的とする。



(3) くらやみ探検隊（2月 年1回）

自然の暗い闇の中を歩き、鹿やフクロウの鳴き声を聞きながら火を囲み、昔ばなしの朗読等、自然の暗闇でしか体験できない探索をすることで原初的な時間を五感で体験することを目的とする。



(4) めだかと一緒にのお米作り

春夏秋冬のめぐりの中で米作りを体験しながら自然体験・生活体験・芸術体験し、「米」という概念をこれらの体験を通して獲得していくことを目的とする。

3月 お花見狂言会

6月 お田植え落語会 田植え

7月 めだかの学校入学式

8月 田んぼの守り人 かかしアートづくり

10月 稲刈り めだかといっしょにきく音楽会（収穫祭）

12月 もちつき



【子育て地域支援関係】

(1) 読み聞かせ事業

読み聞かせサポーターグループと連携し保育園・小中学校全クラスに年2回読み聞かせを実施。年齢、クラスの雰囲気に応じた選書をし、絵本を活かしたイメージ体験をすることを目的とする。

(2) ブックスタート事業

1歳半と3歳の健診時に、子どもの発達にあわせた絵本をプレゼントすることで、早い段階から絵本に親しむ環境をつくり、子どもの健やかな成長を育むことを目的とする。

